

## 事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和 6 年 2 月 1 日

事業所名 コベルプラス黒川 教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4			
	②	職員の配置数は適切である	4			緊急時のヘルプ対応など指導員の安定が課題である。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	1		オムツ交換場所がないが、オムツマットを用意する。 お湯が出ないが、お湯は設備上難しい。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		手洗い・消毒・換気を続けている。	活動的な子どもにとって、壁材が不適切なところもあるので、環境を工夫していく。
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	3	1	日々のミーティングで周知している。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4			怪我がないよう環境の見直しを行っていく。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4		ホームページや LINE アカウントでお知らせしている。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2		外部評価を本部と相談し検討していく。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	1	年に 2 回、社内研修をオンラインで行っている。	外部研修に参加し、専門性を高めていく。
適切な 支援	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4			
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		アセスメントツールを使い、更に聞き	共通理解できるよう情報共有を行っていく。

の 提 供				取りしたことをメモで残している。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4		サービス提供者会議を開き、支援計画を作成している。

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4		2 か月ごとカンファレンスを行い、支援計画に沿った内容か確認している。	個別支援も入れながら、子どもの成長に合わせて支援していく。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		毎月教材が変わり、子どもに合わせて提示している。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	1	プログラムや指導員も固定化しないように工夫している。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4		子どもの必要性に合わせた組み合わせをしている。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		朝礼で打ち合わせをし、確認している。	教室運営や職員体制について、本部と連携を取っていく。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	1	その日の子どもの様子、保護者からの要望などこまめに情報共有を行っている。	職員間で情報共有がスムーズにできるよう工夫していく。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		個人ファイルに共有事項を記録し、支援の検証改善に役立っている。	今後も記録の徹底を続けていく。

	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4		モニタリングを行い、支援計画の見直しをしている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	1		要望に応じて参加していく。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	2	2	地域みまもり支援課やセンターと連絡を取っている。	関係機関と連携していく。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	—	—		非該当
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	—	—		非該当
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	1	3		必要に応じて、共有シートを作成し、連携していく。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	1	3		必要に応じて、共有シートを作成し、連携していく。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4		支援センターと連携している。	
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		4	交流する機会はないが、それぞれ通園している。	

	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		4	自支協に参加できていない。	協議会が開催されれば、参加していく。
	㊱	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			フィードバックの時や療育中に保護者へ声掛けし、共通理解していく。
	㊲	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4		ペアトレを7月から始めた。	全員と毎月開催を目指している。

保護者への説明責任等	⑳	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		契約時に行っている。	ご不明点はいつでも聞きやすいようコミュニケーションを取っていく。
	㉑	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4		契約時に行っている。	
	㉒	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		年長児には、就学相談、放デイの案内を早めに行っている。	ペアトレの時、座談会として相談しやすい雰囲気を作っていく。
	㉓	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	2	ペアトレのグループの時、座談会を実施している。	保護者会の開催を目指している。
	㉔	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4		体制整備を行っている。迅速かつ適切に対応している。	
	㉕	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		教室だより、ブログ、SNS など利用し、情報発信をこまめに行っている。	
	㉖	個人情報の取扱いに十分注意している	4		鍵のついた書庫で管理している。	十分注意していく。
	㉗	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		具体的に、ゆっくりと話し、文字や絵など工夫している。	
	㉘	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		3	体験をおこなっている。	
非常時等の対応	㉙	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		マニュアルの見直しをし、訓練や研修を行っている。	防犯、感染症等の訓練も行っていく。
	㉚	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		避難袋の点検や必要な訓練を実施している。	12月に全員参加の避難訓練を行った。

④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4		契約時に確認している。	
④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	2	小麦粉粘土を使用時、注意している。	今後も十分留意していく。
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		他教室の事例を毎月、共有している。	事故や怪我がないように自教室でも気を付けていく。
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		研修会を行っている。	
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4		契約時に説明している。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。